



## 長野県テニス協会 創立50周年のご挨拶

会長 滝澤 助右衛門

この度長野県テニス協会創立50周年に当り、ここに50周年記念誌を発刊できますことを本当に心からうれしく思います。そして発刊にいたるまでの委員の皆様のご協力、ご努力にあらためて深く感謝申し上げます。

50周年を迎えるこの時に図らずも私が会長を受けたまわっておりましたことに心から感激いたしております。顧みますれば、私が大学を卒業し家業の都合上、上田市に帰ってまいりましたのが昭和31年のことでした。学生時代にテニスをしていたことから、その年、当時の理事長であられた山本清一郎さんから、「県テニス協会を作っている今年で今年度の国体に出場しようではないか」とのお誘いがあり、監督山本、選手沓掛、滝澤で兵庫国体に出たのが県テニス協会として初めての仕事であったかと思えます。その頃からのご縁でありますので、創立50周年というこの記念すべき時に立ち会えることは大変に感慨深いものがあります。設立当時の協会はほんの僅かな人数で、1年ほど前に出来ておりました松本テニスクラブの中に間借していた感じでした。

その後、昭和の2度のテニスブーム、やまびこ国体の開催などもあり、テニスというスポーツが人気を博し、今では市民に定着した感があります。私自身もこの間、選手として、あるいは監督、指導者としてテニスに携わってまいりました。協会においても、歴代の会長、理事長始め大勢の役員の方々の大変なご努力とテニスを楽しまれるプレイヤーの皆様方のご協力の中、順調に会員数を増やし、現在約5,000名という大きな団体に成長いたしました。しかしながら昨今は、経済的不況の折、協賛企業の減少、施設使用料負担の増加等、協会の運営をとりまく環境は必ずしもやさしいものではありません。その様な状況において、役員の皆様は限られた予算の中選手及び協会員が少しでも気持ちよくテニスを楽しむことが出来るよう考えながら、より良い協会に発展させようと懸命な努力をされており、敬意を表したいと存じます。

さて、21世紀に突入し、長野県テニス協会も新たな時代を迎えることになりました。テニスそのものの本質は変わりませんが、テクニックの上に強力な力のテニス、パワーテニスが加わってまいりました。全国レベルの大会で勝ち上がっていくためには、もはや技術のみでは通用せず、腕力、体力の強化が必要です。当協会も競技委員会、強化委員会、普及指導員会、及びジュニア委員会とそれぞれの立場で活動いたしておりますが、常に最新の情報を得て、全国の強豪に伍して行くべく、今一層の活躍に期待いたします。

最後になりましたが、長野県テニス協会が今後益々発展し、100周年、200周年と末永く続いていくことができますよう、関係各位のご協力、ご指導、ご鞭撻のほど心よりお願い申し上げます。